

この街で暮らしたい

1988年5月11日、車いすを先頭にした一団が、知事や教育長との面会を求め、県庁本庁舎2階の知事応接室にこもった。集まったのは中学校を卒業し、県立高校への進学を希望した知的障害のある少年3人と、その夢を後押しする家族や支援者。「知事も教育長も出てこないから待つことにした。占拠するつもりはなかった」。行動を主導した1人、山下浩志さん(73)＝春日部市＝は、ひょうひょうと振り返る。

山下さんは60年代中ごろから、医学連(全日本医学士連合)委員長として学生運動に関わった後、東京都内から春日部市に移住し、77年ごろから隣の越谷市に養護学校をつくる運動に加わった。しかし養護学校が整備されたことで普通学級に通う障害者への圧力は強まり、79年に養護学校が義務化された。

こうした流れの中で山下さんは疑問を持ち始め、78年に「障害のある人もない人も共に街に出て生きよう」を合言葉に、障害者や支援者でつくる「わらじの会」を設立した。占拠するつもりはなかった。行動を主導した1人、山下浩志さん(73)＝春日部市＝は、ひょうひょうと振り返る。山下さんは60年代中ごろから、医学連(全日本医学士連合)委員長として学生運動に関わった後、東京都内から春日部市に移住し、77年ごろから隣の越谷市に養護学校をつくる運動に加わった。しかし養護学校が整備されたことで普通学級に通う障害者への圧力は強まり、79年に養護学校が義務化された。

知事応接室を「占拠した人々



2

農業機械化で仕事も奪われ



1988年5月11日、知事応接室を占拠した障害者やその家族、支援者—わらじの会提供

会党出身の畑和氏(わづか)と称して各課を回った。単には排除されないだろうとの目算もあった。4日間の占拠の意義について、山下さんは「障害者が生身の人間として、その場に存在した」とだと考えている。知事応接室のソファは障害者やその家族、支援者で埋め尽くされ、子どもたちが飛びはねて遊んだ。一同は「総点検行動」

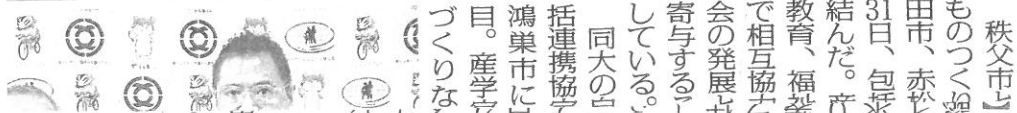
養護学校の義務化 かつて義務教育の対象とされていなかった重度・重複障害のある子どもに対応するため、国は1973年の政令で、79年4月から養護学校への就学を保護者に義務づけた。これにより全国に養護学校が整備されたが、慣れ親しんだ地域の小中学校への通学を望む子どもや保護者からは反発が起こった。学校教育法の改正で2007年4月、養護学校は盲学校やろう学校と合わせて「特別支援学校」に移行。県によると、義務化された79年度の県内の養護・盲・ろう学校の生徒数は2727人。昨年度の特別支援学校の生徒数は7179人に達し、大きく増加している。

がようやく知事応接室にた。来て、「(小中と同様に通常の高校への)自主通学を続けられる方策を検討したい」と回答した。こうした運動を下支えした「占拠」にも参加したのが、障害ゆえに義務教育を受けられず、30代まで越谷市の農家の離れにこもっていた新坂光子さん・幸子さん姉妹だ。「占拠」から2年後(90年3月)の「県交渉」。ストレッチャーに横たわる姉・光子さんの語りを支援者が書き取り、県庁の壁に張り出した。

へおれらは、ねんきんきり(年金しか)はいらねえ だから おやたらに みてもらうてき

半年後の90年9月に光子さんは急逝。その語りは遺言のように、支援者間で語り継がれている。

地域社会の発展へ



秩父市

ものつく畑田市、赤松31日、包袋結んだ。産教育、福祉で相互協会の発展を寄与する。している。同大の包括連携テ鴻巣市に目。産学づくりな